

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 元 年 12 月 10 日

事業所名 こどもプラス吉野ヶ里教室

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	3		・利用する子どもの数によっては、適切な場合とそうでない場合がある。静養室等は児童の状態によっても変わってくる。
	2	職員の配置数は適切である		3	4		・イベント時の職員の数を増やして欲しい。 ・学校をいくつか経由して送迎を組むことで、なるべく教室内にいるスタッフを増やせるようにしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	2			・バリアフリーが必要な児童は今の所いないが、段差などは無く、対応できるようにしている。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	2			・毎日その日の職員でミーティングを行い、前日の振り返りをしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7				・HPに掲載し、保護者がいつでも見られるようにしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	3			・集計結果をHPや教室ごとに配布し職員がいつでも目を通せるようにしている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3	1		・年に1回の保護者向けの自己評価表や月1回の会議で他教室からの外部評価を行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1			・定期的に会社全体で研修を行っている。
適切 な 支 援	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6				・ミーティングの時などに教室の職員でモニタリングを行い、計画の作成に繋げている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2			・契約時に保護者にアセスメントを記入してもらい、利用後の気づきなども追記するようにしている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	3			・スタッフ間で意見を出し合い決めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	3			・同上。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	2			・休日、長期休暇には、平日にできない外出などのプログラムやイベントを企画している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	7				・個別での活動や集団での活動を組み合わせている。

の 提 供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			・毎日その日のスタッフで、前日の振り返りや当日の分担を、ミーティングで話し合っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2		・終了時にはスタッフの数も減り密に行えないので、翌日に行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			その日の児童の活動記録を残し、いつでも見られるようにしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			ミーティングの時間を活用し職員全員でモニタリングや中間評価を行い、見直しに繋げている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	2		休日の外出や運動あそび、余暇時間に工作や児童にあった過ごし方を提供している。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			・児童発達支援管理責任者が参加している。状況・児童によっては他のスタッフが参加し話し合っている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6	1		・学校の先生方にその日の状況や行動などを問いながら、教室での対応に努めている。 ・連絡がうまくいかない日がある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	5		・今のところ事例はないが対応できるようにしている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		4	3	・幼稚園、保育園との連携が取れていない。 ・就学前の児童の利用がない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		6	1	・まだ前例がない。地域交流の一環で関連事業所に訪問することはある。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	2	・助言や参加は出来ていない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3	3	・付近の公園や地域でのイベントに参加し、交流を図っている。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	1	4	・参加出来ていない。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			送迎時に話したり、連絡帳を使ってその日の様子、連絡事項を伝えている。	

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	5		・送迎時や電話などを通してその日のこと、対応方法について話しあい、支援の成功例などを共有し統一に努めている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			・契約時や、受領額通知書、連絡帳などを用いて説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	1	・常に連絡が取れる体制づくりをしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3	2	・開催してほしいとの要望はあるが、今のところ行っていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			・苦情があった際は記録・周知し体制を整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			毎月の予定やイベント内容などを、お便りを作成し配布している。
	35	個人情報に十分注意している	7			・施錠などを行い注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			・児童の特性に合わせた話し方や伝えかたをするように心がけている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	2	・招待はないが訪問はある。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1		・教室内に掲載しいつでも見れる状態にしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	2		・年に数回訓練を行っている。防災センターにも行き、学習へ繋げている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1		・年に数回、スタッフ間での研修を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	1		・他害が多い児童の場合は、計画書などに記載し保護者の了承を得たあとで対応するようにしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3	1	・今のところ事例はないが対応できるようにしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	2		・ヒヤリハットがあった場合はすぐに記載し職員全員が目を通せるようにしている。